

説教 光は闇の中で輝く

ヨハネによる福音書 1章1～5節 大島 力 大学宗教主任



この2021年を皆さんはどのように過ごしてきましたでしょうか。それは一人ひとり違うと思いますが、昨年来の新型コロナウイルスによるパンデミックの経験は共通しています。それは世界が、なかなか明けない闇の中に閉ざされてしまったという経験です。その中で、私たちはクリスマスを迎えようとしています。それは、どのような意味をもっているのでしょうか。

ヨハネ福音書の冒頭に「初めに言があった。言は神と共にあった」とあります。この言とは、イエス・キリストのことを指しています。そして、その「言の内に成ったものは、命であった。この命は人の光であった」と続いています。そして最後に「光は闇の中で輝いている」と記されています。実は、この言葉だけが、他の部分と違って、現在のこととして、私たちに語り掛け

ています。「光は闇の中で輝いている」。この言葉が、クリスマスの出来事の意味を明確に伝えていていると思います。

私たちは毎年クリスマスを、夜が一番長く、昼が一番短くなる時期に迎えます。そのことには意味があると思います。「光を待ち望む」、「光がほしい」。クリスマスへの期待は、闇の中で、光を待つ経験です。2000年前の最初のクリスマスの時もそうでした。人々は暗さの中で、闇の中で、光を求めていたのです。

それは、単に太陽の光という意味ではありません。イエス・キリストが生まれた当時のユダヤの国は、超大国であったローマ帝国によって支配されていました。植民地支配を受け、人々は様々な抑圧の中にありました。人々の暮らしも、一部の人々を除けば貧しいものでありまし

た。そのような中で、人々はメシア、つまり救い主の到来を待っていたのです。

イエス・キリストの時代より前に書かれた旧約聖書の詩編に、このような詩が書かれています。

「主よ、あなたを崇めます……夕べは涙のうちに過ごしても 朝には喜びの歌がある」(詩編30:26)。

このような、朝の光への期待が、長い間、旧約聖書の人々の心にあったと言えるでしょう。人々は待ち続けました。そして、涙のうちに過ごす人々にも、朝は、喜びと共に訪れたのです。そのことが現実となったのが、イエス・キリストの誕生である、と新約聖書は告げています。

星野富弘さんのことを知っている人は多いと思います。私はいつもこの時期、その星野さんの経験と信仰に教えられます。星野さんは、中学校の体育教師になりたての頃、授業中の事故で首から下が麻痺してしまい、全く動けなくなりました。鉄棒の模範演技を見せようとした、教育の熱心さが招いた事故でした。しかし、今は、口に鉛筆をくわえ、花の絵を描き、そして、短い詩と共に私たちに強く励ましてくれています。その星野さんの本の中に、神への信仰が明確に記されている文章がいくつか載せられています。

「わたしは傷をもっている でも その傷の

ところから あなたのやさしさがしみてくる」(『風の旅』)。

「どんな時にも 神さまに愛されている そう思っている 手を伸ばせば届くところ 呼べば聞こえるところ 眠れない夜は枕の中に あなたがいる」(『あなたの手のひら』)。

これは、いずれも星野さんでなければ語れない言葉ですが、しかし、いろいろな傷を負いながら生きている私たちの心に触れてくる言葉です。私たちが生きているということは、様々な傷を負って歩んでいくということです。また、私たちは、この世界で生きていく中で、大小の困難、また闇を経験します。しかし、神様の恵みと愛は、それを貫いて迫ってくるものです。私たちが人生でぶつかる闇の中に、たとえそれが濃くても、光が射してくるのです。そのことを、クリスマスの出来事は私たちに告げています。

「夕べは涙のうちに過ごしても 朝には喜びの歌がある」。

詩編の詩人はこのように語っています。そしてたとえ、まだ朝が来なくても「眠れない夜は枕の中に あなたがいる」と言える。クリスマスは、それほどに神様がイエス・キリストにおいて、私たちに近づいてくださったことを覚える時です。「光は闇の中で輝いている」(ヨハネ福音書1:5)のです。

WESLEY HALL NEWS



まことの光があった。その光は世に来て、すべての人を照らすのである。ヨハネによる福音書 第1章9節

地の塩、世の光 The Salt of the Earth, The Light of the World (聖書 マタイによる福音書 第5章 13～16節より)

幼稚園より

- アドヴェント礼拝Ⅰ 11/25 木 年中組・年長組 26 金 年少組親子
- アドヴェント礼拝Ⅱ 12/ 2 木 年少組・年長組 3 金 年中組親子
- 保護者クリスマス礼拝 12/ 6 月
- アドヴェント礼拝Ⅲ 12/ 9 木 年少組・年中組 10 金 年長組親子
- 年長組クリスマス礼拝 12/15 水
- 年少組・年中組クリスマス礼拝 12/16 木
- 始業礼拝(年長児) 1/ 7 金
- 卒園礼拝 3/ 9 水
- 終業礼拝 3/14 月

初等部より

- クリスマス礼拝 12/18 土
- 卒業礼拝 3/ 4 金
- 6年生を送る礼拝 3/ 7 月

中等部より

- クリスマス礼拝 12/17 金 オンライン
- 伝道週間 1/24月-28金
- 卒業礼拝 3/16 水

*各部の予定は変更となる場合があります。



表紙写真
クリスマスツリー(青山キャンパス)

クリスマスに おすすめの一冊

みなさんはアドヴェントのときをどのように過ごしますか。各部の方々に、おすすめの一冊と一冊を紹介していただきました。

幼稚園 Kindergarten

『クリスマスへの祈り』
ブライアン・モーガン作/セルジオ・マルティネ 絵
いのちのことば社

クリスマスが近づくと書店の絵本コーナーには、クリスマス絵本がたくさん並びます。私は毎年、新しい絵本や、今まで気づかずに出会わなかった絵本などを探しに行くのが楽しみです。その中から数年前に出会った本をご紹介します。その本は18年前に出版されていますので、ご存知の方も多いかもしれません。

友のために祈られた祈りに聖書の御言葉が添えられた本です。温かみのある絵と読み終わった後の余韻が何とも心地よくて、何度も最初から読んで、最後には穏やかな気持ちになります。友を想って祈った祈りが、次第に自分の心に刻まれて

いくという内容で、祈りとは何かを考えるのにも良い本です。

コロナ禍でのクリスマス。今年もまだ、いつものように迎えるクリスマスということがままならない状況ですが、主イエスが神の独り子として、私たちのためにお生まれになったということは何一つ変わりません。心静かに穏やかにクリスマスの時を迎えたいと思います。



幼稚園教諭 石井 京子

初等部 Elementary School

『やまあらしぼうやのクリスマス』
ジョセフ・スレイト 文/フェリシア・ポンド 絵
グランまま社

もうすぐクリスマス。やまあらしぼうやは聖劇に出たいのですが、つんつんとげのある容姿の醜さのため、動物の子どもたちから仲間外れにされてしまいます。やまあらしぼうやのことを、「やーい とげとげボール!」とからかう言葉が、ちくちくと心に刺さります。それでもやまあらしぼうやは劇を成功させるため、裏方の仕事をしっかりと果たします。そして最後には、「とげとげボール」だからこそできる、とっておきの役を演じることになります。

やまあらしぼうやの心を支えるのは、お母さんの「ぼうやはわたしのこころの



ひかり」という言葉。同じ立場になった時、このような冷静な言葉をかけられるだろうかと考えてしまいます。ですがこの母の愛が、何よりも子の心の抛り所になるのです。どんな時でも、「そのままのあなたを愛しているよ」と子どもに伝えることの大切さを感じます。

最後、舞台で輝くやまあらしぼうやを見て、お母さんが「わたしのこころのほし」と呟く場面。母の愛が一段と温かくじんわりと伝わってきます。

初等部教諭 大串 久美子

中等部 Junior High School

『すべての壁をぶっ壊せ! Rock'n牧師の丸ごと世界一周』
関野 和寛 著 日本キリスト教団出版局

関野牧師は、青山学院大学の卒業生です。昨年からの9月までは、アメリカのミネアポリスの病院で「チャプレン(病院聖職者)」として勤務し、新型コロナウイルス感染者の心をケアしながら、ときに命が消えていく瞬間を看取りながら、家族に寄り添うお仕事をしていました。

この本は、牧師でありロックである著者が、各国を訪れ、多くの人と出会い、互いの壁(国境、宗教、言葉、自分の壁など)を壊してきた経験を綴る、笑いあり、涙ありの爆笑本です。

直接、クリスマスに関連する本では、



ありませんが、ぜひ、クリスマス・シーズンを迎えるにあたり、関野牧師の心温まるお話の世界を覗いてみてください。

そうすれば、あなたもわかるはず。神は、すべての壁をぶっ壊すために、人(イエス・キリスト)となって、クリスマスの光として、天から降りてきたということ。

最後に、関野牧師の決め台詞をご紹介します。「迷える小羊であるあなたに、ゴッドプレス(神の祝福)を!」

中等部事務長 武田 英穂

高等部 Senior High School

『クリスマスに贈る100の言葉』
アルフレート・ハルトル編/里野泰昭 訳
女子パウロ会

「心静かにクリスマスを迎えるために」私たちは日々慌ただしく過ごしています。特にクリスマスの時期である12月は日本では「師走」と呼ばれ何か心が落ち着きません。クリスマスは主の御降誕を待ち望む「アドベント」と呼ばれる時期を心静かに過ごし、きちんと心を整えて迎えるのがあるべき姿なのでしょう。

クリスマスに向けて心を整えるための導きとして、これまでおよそ2000年の長きにわたって人々がクリスマスをどのように考えてきたのかを知り、その声に耳を傾けることは大いに参考になります。それらの言葉を自分の心のなかで思い巡らし黙想することによってクリスマスに向けて心を整えることができるでしょう。この本はこれまでのおよそ2000年の歴史の中で人々が考え語ってきたクリスマスに関する100の言葉を選びまとめたものです。1ページ読み切りとなっております。読みやすいですが、1つ1つの言葉はどれも味わい深いものばかりです。クリスマスについてあらためて考えてみたいという方にもおすすめの1冊です。

高等部教諭 山田 徹



大学 University

『34丁目の奇跡』
原題 Miracle on 34th Street
レス・メイフィールド 監督
1994年 (1947年映画のリメイク版)

クリスマスが近づいてくると思い出すのが『34丁目の奇跡』という1994年リメイクのアメリカ映画である。20年以上前に観たものだが、なぜか忘れられず私の心に残っている。

ニューヨークに住むクリスという名の老人は、自身をサンタクロースだと信じ、クリスマスには子どもたちに夢と希望を与えてきた。ある事件をきっかけに、法廷でクリス老人が本当にサンタクロースであるか否かが争われることになる。判事は、クリス老人をサンタクロースとして認めるわけにはいかないと考えていた。審判の日、判決文を読み上げようとする判事に、一人の少女がクリスマスカードと1ドル札を届けた。紙幣には「In God We Trust」とあり、それを見た判事は、サンタクロースであるか否かを法廷で立証するのではなく、我々はクリス老人をサンタクロースだと信じる、という前代未聞の判決を下すのである。

『34丁目の奇跡』は、心から神を信じ神に感謝するとともに人を信頼することの大切さを、クリス老人とニューヨーク市民との心暖まる交流を描いた傑作である。

大学院国際マネジメント研究科教授 市野 初芳



編集後記

「ある国民は自己愛を目的として戦争を愛した。」フランス首相クレマンソー(1841～1929)の言葉です。そもそもアダムは自己愛ゆえに神に背いた罪を妻エバに押し付け、その子カインは自己愛ゆえに弟アベルを殺しました。ウイリスに食され続けても未だに自己愛から抜け出せないこの世に聖書は告げます。「キリストは私たちの平和である」(エフェソ2:14)と。平和の主であるキリストが今こそ私たちに宿るクリスマスでありますように。

(中等部宗教主任 浅原 一孝)

Wesley Hall News 第137号
2021年12月7日発行

発行 青山学院宗教センター 学院宗教部長 伊藤 信
東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-6537(ダイヤルイン)
(URL)http://www.aoyamagakuin.jp/center/index.html
(E-mail)agc@aoyamagakuin.jp
編集 ウェスレーホールニュース編集委員会
印刷 株式会社 万全社

幼稚園 Kindergarten



神様からいただいた賜物

幼稚園保護者 西澤 くるみ

「ページェントの役をそろそろ決めるみたい。」 そう言いながら息子たちが学校から帰って来るとクリスマスが近づいているんだと毎年感じます。6年生の長男、3年生の次男は幼稚園では羊飼いの役をやりました。今年、年長の三男は兄たちと同じ羊飼いの役を選びました。初等部で六年間、何にするか考え続けた長男は、最終学年の今年、何の役を選びましたか? 二年前、当時1年生だった次男が「羊役に応募してきた」と学校から帰ってきた際、私は次男を叱ってしまいました。悲しい顔をした息子を前に、私の「もっと自立つ役をしてもらいたい」という自分勝手な思いを反省した記憶があります。幼稚園では、子どもたちが役でないものを希望しても先生方は何とかできないかと一生懸命考えてくださいます。一人ひとりが大切な存在であり、神様に愛されていることを感謝しております。 コロナ禍にあり日常生活は変わってしまいましたが、一人ひとりに与えられた賜物は変わることなく今年もクリスマスが近づいてきます。私たちを見守ってくださる神様に感謝し、イエス様のお誕生をお祝いしたいと思います。

すべてを照らすまことの光

幼稚園教諭 石垣 李沙

幼稚園では毎年、アドヴェントに入る前に保育者全員でその年のクリスマスについて研修の時もっています。受胎告知について、3人の博士について、などテーマを決めて聖書研究のように進めることもあれば、大学の先生や牧師を招いてメッセージをいただくこともあります。そのことで保育者一人ひとりの信仰が励まされ、支えられているのを感じています。また、そこで分かち合いから、その年のクリスマスに子どもたちと大切にしていきたいことを考えていきます。以前、幼稚園のページェントで年長児が「地球のどこかで」という讃美歌を歌ったことがあります。チャイルドファンドジャパンで繋がっている子どもたちのことや、台風被害にあった方々のことなどを覚え、子どもたちと共に祈り、賛美をささげました。「私たちがすすんでいる この広い地球 神様はどんな人をも 愛しておられる だけどその愛を知らないで 過ごしている人々がいる イエスさまを伝えよう イエスさまを伝えよう この小さな私たちにも 何かできるはず」(新生讃美歌390番)※ 1人でも多くの人が暗闇に輝く希望の光を感じ、喜びのクリスマスを迎えられるようにと願います。

※日本ノブテック社提供使用許諾済み

初等部 Elementary School

イエス様のように

初等部6年 江口 悠太

「すべての人を照らすまことの光」このテーマにぴったりの聖句を見つけました。それは、スクールモットーのマイイによる福音書5章13節から16節「地の塩、世の光」です。1年生のころから「サーバントリーダーになりましょう。」と言われてきました。そして、6年生になり、よくこの聖句を思い出すことが増えました。その理由の一つが、1年生とのパートナー関係です。なぜなら、サーバントリーダーと一緒に、自分のことが出来なければ、1年生のお手伝いをしたり、遊んだりすることは出来ないからです。この聖句を思い出す度に、いつか自分もイエス様のように他の人々を照らしたいと感じます。 今年のクリスマスは、ただ喜ぶだけではなく、ほくほくまわりを照らせる人になりたいと願いながら、イエス様のお誕生日を心からお祝いしています。イエス様の御言葉で、今ほくの心が自分だけではなく、周りの人に向けています。クリスマスこそ「地の塩、世の光」です。



アドヴェントの楽しみ

初等部教諭 佐々木 淳

私には、主のご降誕を祝うクリスマスを迎えるための準備の季節であるアドヴェントを過ごす時に大切にしている3つの楽しみがある。まずクリスマスカードである。以前、担任をしていた時は自作のクリスマスカードを用意して初等部のクリスマス讃美礼拝の日に子どもたちに贈っていたが、ここ数年担任を外れていたため教えてくれた作家として活躍されている吉田瑞美氏(初等部〜本学短期大学卒)にお願いして降誕の場面を描いたすばらしいクリスマスカードを作成していただくようになった。年々のクリスマスカードを飾るひとときが癒いのひとときとなっている。 二つ目はクリスマスベルの飾りつけである。40数年前から購入している8センチほどの年号の入った陶器のベルも毎年一つずつ増え、飾りながらその年のことを思い出すが家族の恒例の時間となっている。 三つ目の楽しみはネクタイである。クリスマスはテーマ日はクリスマスツリーの柄、讃美礼拝の日はリースの柄とクリスマスに思いを馳せながらネクタイを装うのもアドヴェントを過ごす楽しみの一つになっている。 しかし、学期末の慌ただしさの中で毎年アドヴェントを過ごしているが、忙しさの中にも主のご降誕を迎える準備が着々と進んでいく初等部の生活の中で本当の主のご降誕の喜びとは何なのかを考えながら過ごすことが、3つの楽しみより自分にとって何より大切な時間であると思う。

クリスマス特集 すべての人を照らすまことの光

中等部 Junior High School

やさしい光

中等部3年 若狭 朋花

私は日常生活の中で「気づき」を大切にしています。それは、それまで見落としていたことや問題点に気づくことで、前進できると思うからです。 1年生の時、クリスマス礼拝で講堂に灯る沢山のろうそくの光を見ました。ろうそくは命を削って明かりを灯していることから、イエス・キリストの象徴とされているそうです。2年生では、コロナでオンライン礼拝になり、1年間の息苦しい生活の中でも、クリスマスの夜にはとても大切な心が温まるほのかな光に包まれました。 私はクリスマスを通して、目に見える光と心に灯る光を感じました。光はすべての人を照らしています。それに気づくことで愛情や幸せを感じると思います。聖書に「どんなことにも感謝しなさい」(1テサロニケ5:18)とあるように、幸せに気づきそのことに感謝して毎日過ごしていきたいです。そして、コロナと共存していく世の中でも「求めなさい」とあるように、努力を続ければ道は開けると信じて歩みたいと思います。

「いつも」を忘れないうちに

中等部3年 山崎 陽太郎

私の町は、12月25日になると、歩道の花屋にサンタが現れ、モミの木が光輝き、クリスマス色に染まる。そんな日、毎年、ある一つのに感謝している。 それは「家族」についてだ。母親から、父親から、「プレゼント」を受け取った時、私は、家族の温もりを改めて感じられる。そんな日である。 私は基本いろいろといそがしく、帰りが遅いのと、もともと引きこもり体質なので、家族とあまり顔を合わせられない時が多い。でも、クリスマスはそもそも冬休み中なのに加え、なぜか予定が空きやすい。なので、家族と過ごせる貴重な日でもある。家族以外と過ごすことは、本当にあまりない。なので、私にとっては家族という私を支えてくれる大切なものを改めて認識できる数少ない日である。私のクリスマスはそう大きなこともない「いつも」のそんな日である。

家族家族と言っているが、町を歩いて思うのは、私は、プレゼントを、自分だけのお金で購入したことがない。というのも、いらない顔をされるのが怖いのだ。ただ、今年とはんだん小心者の私も勇気を出そうと思う。なぜなら、今年が、中学生として過ごせる最後のクリスマスだからだ。聖書に何度も救われてきた今だからこそ、私はこのような感情が持てるようになったのだと思う。町の景色も、今思うこともいつか忘れてしまうかもしれない。だから忘れないうちに今年こそは勇気を出して……。



2019年度中等部クリスマス礼拝

高等部 Senior High School

力をくれるもの

高等部3年 落合 奈桜

クリスマスといえば、何を思い浮かべますか。サンタコース、イエス・キリストなどさまざまでしょう。私が思い浮かべるのは、カラフルなイルミネーションで飾られた青山キャンパスのクリスマスツリーです。 私の所属する聖歌隊では、毎年クリスマスコンサートを開催していて、本番が近づくと

と毎日のように練習に明け暮れ、くたくたになって青山キャンパスの並木道を帰るのが日常でした。そのとき夜道を照らしてくれたのが、あのツリーです。どんなに疲れていても、そばを通ると自然と上を向いてしまうので、ただそこにあるだけで元気をくれるような気がしました。授業で聖書について学ぶと、私にとってのツリーと同じように、ただそこにあると実感するだけで、安心したり、生き生き力がわいてきたりするものが、誰のものにも存在するのではないかと感じることもあります。 クリスマスは、そのことを私たちに教えてくれる特別な日だと思います。

2019年度 高等部クリスマス礼拝



寒空の下で

高等部教諭 神田 信輔

「神が人となられた」と一言に言われても、あまりしっくりこない自分がいます。神は神なのだから、何でもできる。たとえ人になることさえも容易いことなのではないかと。しかし、それは神としての全ての権威を放棄するいわば捨て身のご計画であり、最後の手段でした。私たちが深い闇から連れ戻すため、私たちのところへと自ら向出してくださったのです。

In the bleak midwinter A stable place sufficed The Lord God Almighty, Jesus Christ. <寒々とした真冬のさなか 馬小屋の中で満ち足りておられる。万能の神なる主 イエス・キリスト (クリスティーナ・ロゼッティ作詞、グスタフ・ホルスト作曲のクリスマス・キャロル「In the Bleak Midwinter」より)>

私たちがもっとも弱く孤独なときに、イエス・キリストは寄り添ってくださいます。そんな主の愛に、私たちはどのように応えることができるでしょうか。華やかさ溢れるこの特別な季節に、神の驚くべき御業を心に留めたいと思います。

大学 University

希望の光に導かれて

総合文化政策学部4年 早川 望々花

「彼らが王の言葉聞いて出かけて」と、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子がいる場所の上で止まった。博士たちはその星を見て喜びに溢れた。(マタイ2:9-10) 占星術の博士たちは、星に導かれて幼子イエスのもとに辿り着きました。小さい頃、どこまでも自分の先を行く星を眺めながら、「一体何を



チャペルウィーク礼拝後の懇談会

思いながら星について行ったのだろう」と考えていました。 4年生になってコロナ禍での就職活動が始まりました。先が見えず、今進んでいる道が正しいかもわからない毎日は不安でいっぱいでした。その中で頑張る力を与えてくれたのは、救い主の存在です。 博士たちは救い主を探し求めて歩き続けました。いつ見つかるのか、どこにいるのか、先が見えない中で厳しい旅を続けることは簡単ではなかったでしょう。救い主の誕生という希望の知らせが、彼らに力を与えたのだと思います。この希望は決して失われることがなく、今も私たちに力を与えてくれています。キリストの輝きに導かれて、新しい一日を過ごしていきたいです。

German Christmas memories

Sven Koerber-Abe, associate professor, College of Science and Engineering

Christmas in Munich in the south of Germany is a little bit different from the Christmas you may know in Japan. It is not a time to go out on a date with your friends, but to stay at home with your family. (And by the way: In Germany we celebrate Christmas on the eve of December the 24th.) Of course for a little kid the most important thing about this festival seems to be getting presents, but looking back now as an adult, instead of all the presents and sweets, the fondest memories I have are the memories of being together with my beloved ones. I especially remember one time when I was 7 years old and got the big castle of the action figures I so loved. That had to be the best Christmas ever! However, thinking about it now, that castle was just a big green box made out of cheap plastic. In reality my happiest memories are having built that castle together with my mother and father, wondering how to get that strange castle elevator to work, and laughing about our clumsiness. These family memories are what I think of when thinking about Christmas. So for me, Christmas is the biggest family celebration in Germany.

高等部より

クリスマス礼拝 12/17 金 PS講堂
クリスマス合同コンサート 12/18 土 PS講堂
卒業礼拝 3/8 火 PS講堂

女子短大より

クリスマス礼拝 12/8 13:30~14:30 水 短大礼拝堂
卒業礼拝 3/22 13:30~14:30 火 ガウチャー記念礼拝堂

大学より

クリスマス礼拝(相模原) 12/16 18:30~19:30 木 ウェスレーチャペル
クリスマス礼拝(青山) 12/21 18:30~19:30 火 ガウチャー記念礼拝堂
学生・教職員逝去者追悼礼拝 1/26 12:30~13:00 水 ガウチャー記念礼拝堂
卒業礼拝 3/26 土

本部より

Art Christmas Aoyama 11/30火-12/8水
点火祭サイトでの配信 各部チャペル
全学院教職員新年礼拝 1/6 17:00 木 ガウチャー記念礼拝堂
※相模原キャンパス同時中継

*各部の予定は変更となる場合があります。